

(平成29年 10月分)

種 類	市況の概況
(水産物部の動向) 水 産 物 全 般	10月は、大型台風が2つ上陸した影響で、さんま、さけをはじめ、多くの魚種で漁獲量が減少したため、水産物の総入荷量は、前年同月と比べ、鮮魚、冷凍魚、加工水産物の全体で入荷量が下回り、全体で9%下回った。 総取扱金額は、前年同月と比べ、冷凍魚は上回ったものの、鮮魚、加工水産物は下回ったことから、全体として5%下回った。 11月は、6日に日本海西部海域において、ずわいがに漁が解禁となり、ゆで丸かに(ずわいがにオス)、ゆでせこがに(すわいがにメス)が入荷する。せこがにの漁期は12月までで期間が短いため、1年で今の時期しか食べられない。
(区分別の動向) 鮮 魚	10月の鮮魚の入荷量は、前年同月と比べ7%下回り、単価は4%上回った。 品目別には、まだい(養成)、はまち(天然)の入荷量は上回り、単価は下回った。さんま、けんさきいかの入荷量は下回り、単価は上回った。 11月には、冬に向けてぶり、さわらの脂が乗り始め、お造りなどで美味しくいただくことができる。また、養殖ふぐの入荷が始まり、前年は生産量が少なく値上がりしたが、今年は安定した入荷で、値下がりしている。
冷 凍 魚	10月の冷凍魚の入荷量は、前年同月と比べ6%下回り、単価は13%上回った。 品目別には、冷さけ、冷えびは前年に比べ単価が上回ったことから、国内需要が低下し、入荷量は下回った。 11月は、アラスカ産紅さけの新物の出荷が増えてくるが、海外における需要が多いため、値上がりすると見込まれている。チリ産銀さけは前年を上回る生産により値下がりしたが、秋さけの不漁の影響から前年並みの価格になると見込まれている。

加 工 水 産 物	10月の加工水産物の入荷量は、前年同月と比べ12%下回り、単価は3%上回った。 品目別には、輸入物の原料の値上がりにより、塩さば、塩銀さけは入荷量が下回り、単価は上回った。また、この時期に需要の多いちりめん、塩さんまは原料の不漁から、入荷量が下回った。 11月は、9日に関西地区一斉に棒だらの入札取引があり、年末に向けて荷動きが活発になってくる。年末商材のいくらは、秋さけの水揚げが少なく、値上がりしている。
------------------	---

※鮮魚には、貝類、淡水魚を含む。

品 目	市 況 の 概 要
(鮮魚主要品目)	
ま あ じ	山口,和歌山で水揚げされたものが主体となる入荷で,入荷量は前年同月と比べ26%上回り,単価は12%下回った。
ま い わ し	愛知,鳥取で水揚げされたものが主体となる入荷で,入荷量は前年同月と比べ17%上回ったが,大型物が入荷が増加したことから,単価は前年並みであった。
さ ば	韓国,石川で水揚げされたものが主体となる入荷で,入荷量は前年同月と比べ20%下回り,単価は41%上回った。
す る め い か	北海道,青森で水揚げされたものが主体となる入荷で,前年が不漁であったため,入荷量は前年同月と比べ272%上回り,単価は13%下回った。
太 物	入荷量は前年同月と比べ6%下回ったが,きはだまぐろが主体の入荷となり,単価の高いくろまぐろが減少したことから,単価は6%下回った。
よ こ わ	北海道,青森で水揚げされたものが主体となる入荷で,入荷量は前年同月と比べ21%下回ったが,良品物が入荷が減少したことから,単価は2%下回った。
ひ ら め	韓国,宮城で水揚げされたものが主体となる入荷で,入荷量は前年同月並みであったが,養殖物の生産が少なく値上がりしたため,単価は8%上回った。

(冷凍魚主要品目)	
冷 さ ば	入荷量は前年同月並みであったが、国内外で大型物を中心に供給が少なく、単価は7%上回った。
冷 す る め い か	入荷量は前年同月と比べ53%下回り、単価は3%上回った。
(加工水産物主要品目)	
塩 さ ば	入荷量は前年同月と比べ12%下回り、単価は6%上回った。
干 か れ い	入荷量は前年同月と比べ56%下回り、単価は29%上回った。